

旅行記 大阪から長島へ

NPO法人 シンクタンク日本

2025年7月11日

目次

1	旅行記	2
1.1	大阪： 鹿児島から大阪への旅	2
1.2	長崎：グラバーとプロジェクションマッピングとキ ティーちゃん	4
1.3	島原・天草：キリシタンの残光	8
1.4	長島：島化する世界	12
1.5	鹿児島：明治は遠く	14
2	あとがき	17

1 旅行記

1.1 大阪： 鹿児島から大阪への旅

大阪商工会議所を表敬訪問した。商工会議所といえば、その地方の大企業から中小企業までを取りまとめる寄合所のようなものを想像していたが、さすがに大阪は違っていた。

都心の大きなビルに優秀な社員が活発に働く現代企業だった。



図 1: 大阪商工会議所正面

1

この組織の礎石を築いたのは、五代友厚という元薩摩藩士だったことはよく知られていることで、大きな銅像が正面玄関に立っている。

今回の旅は、大阪から長崎を経て鹿児島まで九州を中心の調査旅行となる予定で、はからずも五代の比較的短い人生の旅程を逆にたどることになった。

旅行といえば、今回の足は、新幹線、航空機、九州内はそれに加えて乗用車であったが、もちろん当時は徒歩、駕籠、馬、回船しかなかったため、我々の旅の経路には、数週間を要したに違いない。



図 1 大阪商工会議所正面

維新のころの、後に名前を残す人物たちは、驚くほどに活動的で、軽々と国内を移動している。五代も優秀な人材として藩からの指示で長崎まで留学している。長崎海軍伝習所で学び、薩英戦争のときは、藩の船に乗っており真っ先に鹿児島湾で英軍の捕虜になっている。さらに、戦争後2年で、20人ほどの若者を連れて英国留学を果たしている。当時でも30歳に満たない。

明治の改元直後31歳で官を退き、民間の政商としてその後を生きていった。亡くなったときは49歳である。

驚くのは、その移動の距離と時間である。長崎、英国、大阪と移動しながら仕事をし続けて行ったのは、人生の時間のバランスからは、現代では考えられないほど大変な事業だ。その間、ビジネスの傍ら、大学を作ったり、この商工会議所を立ちあげたりそのエネルギーはどこからもたらされたのか。

能力として他から抜きこんでいたからこそ、藩の指示で長崎、英国に派遣され、それが当然という結論ではあるのだが、視点を引いて観れば、幕末、明治の時代の飛翔感を体現する人物であるところは誠に印象深い。

1.2 長崎：グラバーとプロジェクションマッピングとキティーちゃん

長崎は、明治維新の頃の志士の活躍の舞台として印象付けられています。同時に当時の海外貿易のほぼ唯一の窓口として開かれた港として、グラバーやシーボルトらの外国人の名前とともに我々の記憶に残っています。

おくんち



図 2: おくんち

² 大阪から新幹線を乗り継いで、長崎にやってきたのは、ちょうど「おくんち」の末日の午後でした。400年の歴史を持つ「おくんち」は、祭りの落ち着いたたたずまいと勢子のひたむきさが印象的です。末日というゴールにたどり着いた安堵感からでしょうか、歴史への一体感からでしょうか、成人の男性勢子の多くは、人目も構わず男泣きに泣いています。

おくんちの主要な山車は、土地柄からか index 竜神竜神という中国文化を感じさせるものでしたが、実際は、長崎の古い神社のご神体なのだそうです。

男衆の涙とともに、日も落ちた町の一角で、竜神が引き回され、白



図 2 おくんち

い息を吐出しながら回り踊る様は、10月9日という冬を控えた毎年の自然現象として長崎の人々に長く受け入れられているようでした。

竜神の吐く吐息も絶え絶えになったところに、夜のグラバー園を尋ねました。

おくんちの
末に涙の
解散日

今日、衆議院が解散されました。

グラバー園

この施設を訪問するのは、確か私にとっては3度目のはずですが、夜更けのグラバー邸は初めてで、しかも、近代化されたプレゼンテーションに驚きました。

夜更けにもかかわらず公開されているグラバー邸は、見覚えのある円形のテラスで、この建築スタイルは他にないユニークなものです。国内の西洋風建築の住宅としても最古のものだそうです。

園内の他の建物が、米国の東部に多いコロニアル風で、日の光を十分に取り込む窓の配置に比べ、グラバー邸だけは、アジア風の、どちらかといえば陽を避けるようになっているのも、施主の意趣が感じられて面白いと思います。

家の内部を回っていると、外部からの侵入には全く無防備な全方位開放で、円形の部屋の配置は、しばらく居ても、感覚の混乱を拭えません。

つまり、住人の利便性というよりも、巨大な東屋あるいは、家ごと客間という作りであり、グラバーの遊び心を異国の地で満足いくまで発揮したという想像ができます。

園の隣りには、大浦天主堂があり、どう見ても西洋建築のとは思えないこの建屋も、グラバー邸の建築家・大工が建てたのだそうです。

この大工の腕を見ても、当時の文化と技術の水準の高さがうかがえ、グラバー等の西洋人も驚いた事でしょう。

部屋を巡る途中に、五代友厚がグラバー邸に通った史実がパネルに書いてありました。前日に続いて、また会ってしまいました。

この分では、鹿児島でもお目にかかるかもしれません。



図 3: 三菱重工長崎造船所第三船渠

³ なお、五代が藩の指示で通っていた長崎海軍伝習所は、現在の県庁であり、邸からも歩いて 2km 程度で、なじみの、土地感の利く場所だったことでしょう。

高台のグラバー邸からは、対岸の三菱の造船所がよく見えます。これを設立した五代とグラバーは、ここから景色を眺め、杯を交わしながら構想を練ったに違いありません。



図 3 三菱重工長崎造船所第三船渠

ハローキティとジャポニズム

グラバー園内の建物の中でも、敷地の最も高い位置にある、旧三菱第 2 ドックハウスのやや平面になっている壁面に投影されるプロジェクションマッピングの映像は、本当に驚きました。

なんと、ハローキティが走り回って蝶を追いかける様子が映し出されています。運営者は、グラバー園を、テーマパークか、ディズニーランドにしたいのだろうかといぶかしく感じながら少し眺めていました。

色々考えていると、ハローキティは、現在では世界的に知られた女性向けのキャラクタであることを思い出しました。レディーガガが熱愛する Kawaii シンボルである、この顔の造作の控えめな猫は、長崎という、江戸末期に外国に開かれた港としてのジャポニズムの発信基地

の象徴には、案外ぴったりかもしれないと思い始めました。

現代はいわば第2のジャポニズムといえるような時代です。これは昨日今日始まったわけではなくて、1990年代には既に米国の書店では、書棚の丸々1ブロックが日本のマンガで占められているのが一般的でした。同じように、大学では、日本のアニメの上映会が学生主催で開かれたりしていました。

いまでは、音楽、絵画、アニメ、マンガと昔のジャパニズムよりもずっと多様になりました。北斎や浮世絵師のデッサン力に当時の欧州の画家は驚きましたが、現代では鳥山明を始めとするマンガ作家の筆力や宮崎駿などのシナリオ構成力、さらに両者のアニメへの作り込みの緻密さに世界中が賛辞を送っています。

往時のジャポニズムは世界の絵画やアートの潮流を大きく変える力がありましたが、現代のジャポニズムは何をどのように変えるのでしょうか。

プロジェクションマッピング



図 4: 鰯養殖場、竹島加工工場

⁴ それにしても、プロジェクションマッピングという大掛かりな設



⁴ 図 9 鰯養殖場、竹島加工工場

備を園内に何か所も設置してあるのは、グラバー邸の人気の高さがわかります。

筆者は、実は、「プロジェクション＝投影」の、ある意味では専門家です。1975 年ごろに、高校生にでもわかるベクトル幾何の知識を利用して、プログラム向きの投影のアルゴリズムを考案しました。成果は大型計算機センターに 16mm フィルムの撮影結果と一緒に納めましたが、それから 50 年ほど、図形に関する教科書の中でもこれを使い、一生ついて回る仕事の原点になってしまいました。

液晶プロジェクタという機械が、この設備の中心になります。

現代の映画設備は、デジタル化の波を受け、映写機によってフィルムを使って上映する方式から、プロジェクションマッピングと同じように、液晶プロジェクタによって「デジタルシネマ」で提供されるのが標準になってきています。現代のジャポニズムがこれだけ広く普及しているのも、このデジタル化の圧倒的な世界的傾向によるものです。

液晶プロジェクタは、画像を画素単位で分解し、「RGB」つまり赤：Red、緑：Green、青：Blue 毎の画像を合成してレンズでスクリーンに像を結びます。

20 世紀中は、16mm フィルムに光を当てたり、OHP（オーバーヘッドプロジェクタ）というやや大掛かりな道具を講演などで利用していましたが、もはや、液晶プロジェクタに対抗できるのは大型モニタしかなくなってしまいました。今でも、講演で「何枚目のスライド」と呼ぶのはこのころの名残です。

古い世代は、「幻燈」という言葉にノスタルジーを感じるかもしれません。これもやはり、プロジェクションという言葉が当てられています。機械のなかった当時の子供は、電灯とレンズ 1 枚で壁面に映像が映し出される幻燈の仕掛けには、わくわくしたに違いありません。原理は、ほとんど液晶プロジェクタと同じで、幻燈の場合は画像の反射像を、レンズでスクリーンに結像します。

元々、人間の視覚の仕組みは、眼球内の網膜への投影による入力から成り立っています。我々の網膜がスクリーンであり、レンズ体が像を結ぶためのレンズということになります。

考えてみると、液晶プロジェクタよりずっと性能の高い光学系が、人体で 100 年近く稼働しているのは脅威といってもよく、生物の玄妙さは幻燈という神秘性を感じる言葉の印象にふさわしいとも感じられます。

1.3 島原・天草：キリシタンの残光

昨晚訪れた園近くで成竹社長の運転でレンタカーに乗り、鹿児島までの約 400km の旅が始まりました。

九州の西側になじみの薄い静岡や東京の住民は、考えてみると、長崎、佐賀、熊本、鹿児島といわれても、地理的な県の形や道路の繋がり具合などはさっぱりわかりません。今回の車での旅は、長崎から鹿児島まで、島々の関係や風土を身をもって理解するいい機会になりました。

調査の旅は、長崎を出て、島原半島から熊本県の天草下島にフェリーで渡り、さらにもう一度フェリーで鹿児島県の index 長島長島に抜けるという九州西部の南北の縦断になります。

フェリーで海の上を移動するときは、波により船が揺動するのが自然であり、乗客は気候が荒れた場合は、多くは恐怖を感じます。近海でいえば、東シナ海の荒海や、玄界灘の荒々しさが名前に残っています。

荒波は、天候による風や低気圧だけが原因ではなく、黒潮という世界的にも速い海流も役割を果たしています。

沖縄の南西諸島に沿って日本に接近する時速 7, 8km/時の黒潮は、常に荒れている沖縄近海を作り出します。例えば、雲一つない晴天でも波高は数 m に達し慣れていないと必ず船酔いするということを身をもって体験しています。

しかし、長崎から、大村湾を過ぎ、諫早を越えたころ、鏡のように静かな海が見えてきます。波が磯に碎ける様子もなく、大きな池を見ているようです。

島々に囲まれた内海、有明海の穏やかさは、太平洋に慣れた筆者には経験のない驚きです。

運転担当の成竹社長は、快調に経路を進めていきます。

島原半島の名前を有名にしているのは、温泉、普賢岳、島原の乱の城址ということになるでしょう。

成竹社長は、我々のために、もっとも有名な雲仙温泉に立ち寄ってくれて、ちょうど箱根の大涌谷に似た、硫黄の匂いの広がる地獄の名前の付いた地形の周辺を散策しました。

他の観光地と違って、客足が鈍いように見えます。ホテルも半分休業の様子です。インバウンド景気の昨今の様子うかがえません。

正面にある普賢岳の噴火災害は 1990 年 11 月に発生し、噴火は 6 年余り続きました。そのとき、大規模な山体の変形が発生したために、源泉に影響があったのかもしれない。

道路を半島東側の島原市に向かって降りていく途中に、普賢岳の噴火跡を全景に見る観測所がありました。



図 5: 普賢岳

5

土石流の起点から山を駆け下る様子は、30 年以上も過去の跡とは思えないほど生々しく火山災害のすさまじさを実感しました。

普賢岳噴火災害以降では飛騨御嶽山の噴火災害があります。

2014 年のことでした。自然災害は、人の力の及ばないものと決まっていますが、このときも、噴煙が空を覆い、やがて、観光客に向かってとても逃げきれない速度で迫ってきた映像が残っています。

とはいえ、静かになった山には、今ではもう平気で近づいているのですから、火山に代表される自然への日本人の距離感と知恵には、長い歴史の上のヒトの経験の蓄積を感じます。

島原城と原城址

雲仙普賢岳の東の麓には、島原市が広がっており、海近くに、**島原の乱 (1618-19)**⁶ で名前を知られる島原城がそびえています。

もちろん、徳川の世になって禁制となったキリシタン (キリスト教) の教徒による組織的反乱の舞台となった城です。





図 6: 島原城

7

島原城には、最も名前の知られた、反乱のリーダである **天草四郎**⁸ の痕跡も残っています。実際には、島原の乱の凄惨な最後の段階は、南に下った、当時既に廃城だった index 原城に舞台は移っていました。

島原城から 80 丁ほどの船での移動になってからは四郎が、名実ともにリーダとして戦わざるをえなかったようです。

伝え書きでは、白い装束で宗教上の導師にふさわしい外見だったそうです。10 代半ばだった四郎は、残された彫像によれば少しふっくらした小柄な少年で、戦乱の世を生きた戦国武将とはあまりに違う出自と外見で、あらあらしく討ち取られた最後は、自分でもきっと何が起こったか自覚もできなかったと思います。

島原城は、見学者も多く駐車場も整備されて観光スポットとなっていました。原城はそれとは違って、建物はなく公園のような城址に、四郎の小さい墓と彫像があるだけでした。この墓は、史郎の母親が建てたものがのちに発見されて移設されたそうです。

城址のところどころには、城の存在したところの様子を VR で表示するという説明で QR コードが掲示してあります。期待してアクセスしてみましたが、残念ながら表示までたどり着けませんでした。見果てぬ仮想現実となりました。



7

図 6 島原城



8

天草四郎



図 7: 原城本丸跡

9

「夏草や兵どもが夢の跡」

芭蕉が奥州で詠んだこの句が、これほどふさわしい場所はないと感じて島原を後にしました。

9



図 7 原城本丸跡

1.4 長島：島化する世界

島原半島の南端の口之津からフェリーに乗り、下島に渡りました。天草の下島は大きな島で、本州など4島を除くと国内4位の面積で、上島の一部と併せて人口も6万人弱と、ほぼ中程度の市の規模となるそうです。九州とは、熊本県側で橋によってつながり、島というよりも半島というイメージになっています。

フェリーは鬼池崎津港に着き、島の半分ほど車で移動します。下島と上島の接合転移位置する天草市外で今日の宿泊です。

運転お疲れ様でした。

次の日はいよいよ、index 長島上陸です。

下島を半分以上南に下ったところにある中田港からの出発になります。この辺りは、首長竜が出土したことが有名で、実物模型が港口に展示してあります。

またしても鏡のように静かな天草の海を船で移動します。ジーゼルエンジンの振動だけが響く船内でぼんやり島影を眺めて眠気と戦いながら、獅子島を過ぎて index 長島にいよいよ到着です。

諸浦港には迎えの役場の方が見えていました。

今回の最大の目的である index 長島の産業関連の見学が始まります。

薄井港市場

最初は、活気の溢れる、薄井港です。静かながらも潮流が速い条件を生かし、マグロの生け簀養殖水揚げが全国一のこの港は、ちょうど田んぼのように点々と生け簀の浮きが並び、狩猟だった漁業が農業化していることが分かります。

豊富な水揚げで、港の食堂は観光客で一杯です。「**長島大陸市場食堂**¹⁰」は、誰でも訪問者は一度は食べに来るということです。

確かに、臭みの全くない鰯の本当の味を堪能できます。



鹿児島大学水産学部附属海洋資源環境教育研究センター

index 長島は、鹿児島県の自治体なので、鹿児島大学の施設も置くことができるようです。

立派な建物ですが、コロナ禍に一時閉鎖されていたそうで、ようやく再始動したそうです。合宿形式で、学生さんが演習で訪れるそうです。ちょっとしたリゾート気分と美味しい海産物で、実習がなければ、都会育ちにもきっと評判がいいでしょう。ここからは外洋に出ることもなく、小さな船と大きな陸上の水槽が養殖漁業の実際を表しています。

残念ながら、管理の方以外は滞在していないので、外回りを見せていただいて、この施設を後にしました。

観光地としての長島

車で移動中、高台の見晴らし場所で、日本一長めのいいトイレに入りました。眼下に、島々が見え、静かな海に点々と養殖生け簀の浮きが点線を描いています。

最近、観光の個性化が進んでいて、テントを使った高度な屋外レジャーのグランピングや貸別荘など、風景や孤独感を魅力とする施設があり、index 長島長島の高台は地理的にはこういう目的に適していると感じます。

島の西側には、温泉やグラスボートもあるそうで、もう数日滞在できれば廻ってみたいところです。

全国の島あるいは半島の観光については、これから情報の流通に関するインパクトが再度押し寄せてくると感じられます。それは島の持つ海で仕切られる世界観や閉じた社会の温かさに魅力を感じる若い世代が一定割合で発生すると感じられるからです。

体験を、現場と同時に遠隔地から仮想現実的に経験することが、これから一般化しますのでその組み立て方によっては、観光産業の地域格差が発生することになるでしょう。

町役場や、漁業組合にも訪問できました。どこでも、島の魅力を体験する人当たりのいい方々に会い、天然の境界である海のあちらとこちらの出会いとなって、大げさに言えば非日常の出来事に参加している緊張感のようなものを感じました。

島と橋

indexindex 長島長島町は、北に諸浦島、伊唐島、獅子島他の小さな島が並び、諸浦島、伊唐島は橋で結ばれていますがこの2島より大きな獅子島は、どの島とも橋ではつながっていません。八代市から出水市にかけての内海なかでは大きな島である獅子島がフェリーでしか到達できないのは、産業的にも観光的にも不利と感じられます。海域の地形で難しい工事になるそうで、技術面でも橋はなかなか実現できないということと想像します。これは、熊本県側の下島との間も同様で、県境を挟むこともそれを一層難しくしているようです。

世界の仮想化と島化

情報の伝達量と速度が10年ごとに1000倍ほどに膨らんでいる現代は、すぐ先に何が起こるかの予想が全く建てられない時代になりました。

高度な情報社会は、身体の開拓として様々なセンサーや感覚が広がっていくことが特徴です。

その結果、10,000km 離れている事件の詳細を瞬時に知ることや、感覚的にその場の体験をすることが可能になりました。

日本にいても、全国に何が起きているかは数秒で知識を得ることができます。

世界は、海で仕切られた島化しているのです。

世界観も随分変わりました。リモートセンシングやIOTは、珍しい特殊な技術ではなくなり、個人でも簡単に利用できる時代になりました。

生成AIなどの助力を得て、人間の能力が、一定の規模を越えてくると、身近なものについての意識が変わります。リアルに出会うものには改めて親しみを感じ、日常は仮想と現実の間を移動しながら生活する。

これが、世界の近未来と思います。

世界の諸国に比べた日本のメリットの一つは、「島」の世界観を有史以来、生活の上で身に付けていることだと思います。

世界の未来は日本の現代と感ずる理由でもあります。

1.5 鹿児島：明治は遠く

長崎から鹿児島まで一人で運転を引き受けてくれた成竹社長の疲れも、夕方鹿児島に到着したときは、傍目からも明らかで、旅行最後の夜を鹿児島中央駅の近くのホテル下の居酒屋で夕食を取ることにした。

ホテル近くには、甲突川が流れている。このどこにでもありそうな川は、明治維新のころの重要人物たちが幼い頃を過ごした、加治屋町という狭い地域が面していることで知られている。当時の薩摩といえば、西郷隆盛の知名度が高いが、大久保利通、西郷従道、大山巖、東郷平八郎、山本権兵衛、樺山資紀らも、この狭い町内から出ているので皆不思議がったのである。近くに、明治に西鹿児島という駅ができ、九州新幹線の鹿児島中央駅に生まれ変わるまでは、比較的民家の並ぶ街並みだったが、現在では全国共通の、新幹線駅の周りの街のパターンに落ち着くことになった。

この周辺はを正面に臨むため、季節によっては降灰がひどく、20世紀中は生活の中に灰掃除と回収が家事として確立していた。

筆者の父方の祖父は、戦前、視学官として甲突川の対岸の西田町に住んでおり、私自身も結婚までのかなり長い期間ときはここに本籍地があった。今は人手に渡ったその家に何回か泊まったことがあるが、当時は家の中にまで入り込んでくる灰ばかりが印象に残っている。

ただし、目の前の桜島だけは感動的であった。



図 8: 桜島全景

11

山下清から梅原龍三郎まで、有名画家も桜島を題材として描いている。多くは、画面全体を桜島が覆い、富士山のように周りの景色を画面に入れるという風景のバリエーションがほとんどない。



11

図 8 桜島全景

桜島の絵を描く素人画家もとても多く、ほとんどがこの構図である。筆者の父も旧制高校までこの地に住み、桜島を何枚か引退してから書いている。鹿児島で桜島の風景の中で育つと、この同じ構図で絵を描きたくなるのかもしれない。

セザンヌも郷土愛の人だったらしく、「サント＝ヴィクトワール山」を長く描き続けており、筆致が桜島を描く画家たちと似ているのは面白い。

西郷は様々な逸話や、書、評伝が残されているが、桜島について本人が語ったものをあまり聞かない。生家や、西南戦争の終焉の地である城山からも桜島はよく見えたはずであるが、辞世にすら桜島は出てこない。

確かに、身近な存在、例えば親について何か詩歌を作ってみろと言われてもほとんどが二の足を踏むのと同様に、桜島があまりに身近なのかもしれない。

翌日は、ホテル前から高速バスで 40 分足らずで鹿児島空港に到着した。

筆者の年齢を過去に振り返してみると、西郷の自刃した年あたりになる。1 世代を 30 年とすれば、3 世代 4 世代以上の時を経て、全ては歴史の中に溶け込んでいくのだと、すっかり地方の県都らしくなった鹿児島を後にしながら、妙に納得して帰路に着いた。



図 9: しろくま かわいい系

12

前夜に天文館で食べそこなった「しろくま」を空港で食した。すっかり kawaii 変身をしていた。

12



図 9 しろくま かわ
いい系

2 あとがき

今回の旅は、主要目的地の長島出身である成竹社長のお招きによるものだった。

主に九州の西側を、ほとんど通る機会のない長崎・島原から長島・鹿児島までの大変長距離にわたる車での移動を主としたものとなった。貴重な機会を与えていただいた成竹社長に心からお礼申し上げますと共に、長いドライブを一人の運転で乗り切っていただいたことにも改めて感謝申し上げます。

索引

索引

kawaii, 16

Kawaii, 6

おくんち, 4

グラバー, 4-6, 8

しろくま, 16

セザンヌ, 16

ハローキティ, 6

プロジェクションマッピング, 6

下島, 12

中田港, 12

五代友厚, 2, 5

伊唐島, 14

口之津, 12

天文館, 16

天草四郎, 11

天草市, 12

島原の乱, 9, 10

普賢岳, 9

桜島, 15, 16

液晶プロジェクタ, 8

獅子島, 12

薄井港市場, 13

薩英戦争, 3

西鹿児島, 15

諸浦港, 12

長島, 12, 13

長島大陸市場食堂, 13

長崎海軍伝習所, 3

雲仙温泉, 9

首長竜, 12

鬼池崎津港, 12

鹿児島中央駅, 15

鹿児島大学水産学部, 13